

2025年3月8日

島崎賢志郎

第366回山口西田読書会（2025年3月1日実施）プロトコル

【テキスト】

『左右田博士に答ふ』五 316頁2行目～317頁2行目まで

【キーセンテンス】

「故に知的自覚の底には意志的自覚が見られ意志的自覚の奥には自己自信を見るものがある」（316頁15行目～317頁1行目）

【考えたこと/問い】

○超越について

「個物」や「無の場所」は、それぞれ主語面と述語面の一般性を超越したものであると言われている。また、「知的自覚」「意志的自覚」「自己自身を見るもの（直観）」の間にも超越が起こっているとご説明頂いた。ところで我々は普段、判断的な知識の領域、知的自覚の領域にどこまでもとどまっているように思われる。西田の言うように真の無の場所において個物（真の自己）を直観する場に立つためには、判断の次元を破って超越的なものを志向する意識が生じる必要があるのでは思われるが、そうだとすればそれはどのようにして可能なのか。